

答えは世界ではなく、日本人の心の中にあった。

日本古来の和と助け合いの心「大和心」を中心にすれば、経営も国政も素晴らしいものになっていく。

「明るく、さわやか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」をモットーに！

例えば、日本的経営はグローバルスタンダードや、能力主義、合理主義だけでやっていると、いずれ立ち行かなくなり、より競争力を高めるため、過重労働やリストラ、低コスト化のための仕入れ先や下請け企業への圧迫、企業買収、工場の海外移転などに至ります。

国家レベルでも弱肉強食や自国の目先の国益や利権だけを考えた「今だけ、金だけ、自分だけ」の我よしのやり方では、最初は経済が高度成長して暮らしむきが豊かになったように見えますが、いずれは立ち行かなくなり、次第に不景気になり失業者が増え、しまいには大義名分の上での戦争や経済的・軍事的侵略、実質的な植民地支配などを陰で画策する国まで出てきます。

実際、欧米諸国がリードしてきた資本主義、貨幣経済、競争社会は自由主義経済を発展させましたが、その一方でグローバルスタンダードという美辞麗句のもと、**格差社会、支配する側とされる側という2極化**を生み出し、近年世界の人々の心は加速度的に荒廃してきているようにも思えます。「今だけ、金だけ、自分だけ」といった弱肉強食の物質偏重のやり方では世界各地でいつまでたっても紛争が絶えません。

現在の民主主義も、もし各々の国民が国が良くなることよりも「今だけ、金だけ、自分だけ」といった、我よしの考えだけで政治家を選ぶようになれば、当然選ばれた政治家も我よしの考えになります。現在の**官僚や政治家のレベルそのものは、良くも悪くも我々国民**

のモラルが反映されたものに他なりません。

このように、その原点に日本古来の和と助け合いの心がない場合は、弱肉強食や我よし主義はもちろんのこと、自由競争、資本主義、貨幣経済、能力主義、合理主義、国際化、グローバルスタンダード、TPPなど、現在どちらかと言うともはやされている考え方でさえ、実際はその通りにやっていると、意外なことに他の人々を、周囲の誰かを、他の企業を、他の国を踏み台にしない限り、いずれ立ち行かなくなるものなのです。

しかし、**和と助け合いの心「大和心」を中心に据えてやっていると、最初はバツとしくても末広がりに良くなり、いずれ共存共栄の弥栄(いやさか)の状態にいたります。**

そして私なりに考え、到達した答えが日本古来の和と助け合いの心「大和心」を重視した経営手法です。**大和心とは全てを包み込む心、自分や家族と同じように他を愛する心のこと。**これを実践していくことが、今求められている経営だと確信しています。

今回のオリンピックを振り返ってみると、「大和心」を実感させられる場面が多くありました。例えばフェンシングです。個人戦ではメダリストは生まれませんでしたが、フルレ団体では見事銀メダルを獲得しました。この他にも、アーチェリーや卓球の女子団体、水泳(メドレーリレー)、バレーボール、サッカー等、チームスポーツの躍進が目立つ大会だったと思います。

また、東日本大震災の時もあの極限状態の中、被災者の方々は少ない物資を分け合ってお互いに助け合い、肉親を亡くした方々や行方不明の方々も多い中、今にも崩れ落ちそうな心をお互いに支え合って、何とか生き抜こうとする姿は、日本人のみならず世界中の人々に少なからず感動を与えたはずで。

このように、日本人はたとえ一人ひとりの力がそれほど強くない場合でも、**和になってお互いに助け合うといつでも最高の力を発揮**します。それはスポーツや震災のときだけではなく、政治や経営にも当てはまります。この和の力を最大限に発揮するには弱肉強食、競争や対立、我よしの心ではなく、和と助け合いの心「大和心」が絶対に必要なのです。

そして、「大和心」を育てるためには何よりも**明るく前向き**であり、**さわやかでこだわりなく**、自分のことだけを考えず、他の人々に対する**感謝と慈愛の心**を忘れずに、そして他の人々に対する**懐の深さと大きさ**が必要なのです。

私の考える理想的な社会とは、見た目や能力や権力や財力ではなく**モラル(徳)の高い人ほど上の立場**にいくような社会です。自分の上司や先輩が自分より、常に明るくさわやかで慈愛に満ち、懐が深く大きくければ、誰だって人間関係で悩むこともないし、毎日働くのが楽しくて仕方なくなるでしょう。

「大和心」が浸透した組織は末広がりに良くなっていく、どこかで立ち行かなくなると

いうことはないのです。そのことを世界の人々に身をもって示すことができるのは他ならぬ日本人であり、それこそが**日本の真の役割、真の国際協力**ではないでしょうか。

そんな願いを込めて、「**明るく、さわやか、慈愛、そして懐の深さと大きさ**」というモットーのもと、この「**青春リハビリテーション**」という明るく前向きでさわやかな言葉とテーマソングである、「**ありがとう**」という感謝と慈愛の言葉で始まる**ノソラの「優しく強く**」を岩手を中心に日本全国の方々に少しでも知って頂ければと思っております。

国民県民の皆様、まことに至りませぬ私ではございますが、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しく御願い申し上げます。



医師／加藤 博